角島灯台
文化財の概要

1　指定対象の概要

角島（つのしま）灯台　１基、２棟

灯台　　１基
旧官舎　１棟
旧倉庫　１棟

附　旧日時計　　１基
　　旧回転装置巻上機　１点

2　構造形式

灯台
石造及び金属造、建築面積６７．２５㎡、総高２９．６ｍ
旧官舎
煉瓦造、平屋建、建築面積１６１．４６㎡
旧倉庫
煉瓦造、平屋建、建築面積１９．６８㎡
旧日時計
石造
旧回転装置巻上機
（外形）高さ１１４㎝、幅７０㎝、奥行７０㎝

3　所在の場所

灯台、旧日時計
下関市豊北町大字角島字夢崎２３４３番地１
旧官舎、旧倉庫、旧回転装置巻上機
下関市豊北町大字角島字夢崎２３４３番地２

4　所有者

灯台、旧日時計
海上保安庁（東京都千代田区霞が関二丁目１番３号）
旧官舎、旧倉庫
下関市（下関市南部町１番１号）
旧回転装置巻上機
公益社団法人燈光会（東京都港区西新橋一丁目１４番９号）

5　建築年代

明治８年

着工　　明治６年８月１３日

竣工　　明治８年１２月３０日

初点灯　明治９年３月１日

6　沿革

角島灯台は、日本海へと続く響灘東端に位置する角島西端に位置し、明治９年３月に初点灯した。築造にあたっては、日本政府が雇用した外国人技術者リチャード・ヘンリー・ブラントンが、英国スティヴンソン社の仕様書に基づき指導監督した。

灯台は、円錐台形の灯塔に扇形の付属舎が取り付き、灯塔、付属舎とも、花崗岩切石積である。灯塔の上部に、ドーム型の屋根を持つ金属造の灯籠が載る。

灯塔内部は、花崗岩の螺旋階段が精緻に組まれ、中央部に煉瓦を円筒状に積んだ分銅筒が設けられる。分銅筒はレンズの回転装置の一部で、分銅の自然落下により生じる力をレンズの回転に利用した。

灯籠内に設置される第一等八面フレネルレンズは、明治９年の初点灯時から使用されるものである。

灯台と同時期に建てられた旧官舎は、灯台守のための住居であり、当初は外国人灯明番が使用したことから洋風の設えであった。生活様式の変化に伴う間取りの変更や、戦後の台風災害の復旧時に屋根の形状を変更するなどの改造が行われているが、昭和６１年４月の灯台の無人化に伴い旧豊北町の所有となった後、平成５年に復原整備を行い、灯台記念館として公開活用している。旧倉庫も灯台と同時期のものである。旧官舎、旧倉庫は、いずれも改造が認められるものの主要な構造となる煉瓦壁が残り、旧倉庫については、屋根を支える小屋組も当初のものである。

旧日時計も灯台と同時期のものと見られ、また、旧回転装置巻上機はレンズの回転に用いられる分銅を巻き上げるために使用されたものである。

7　価値評価

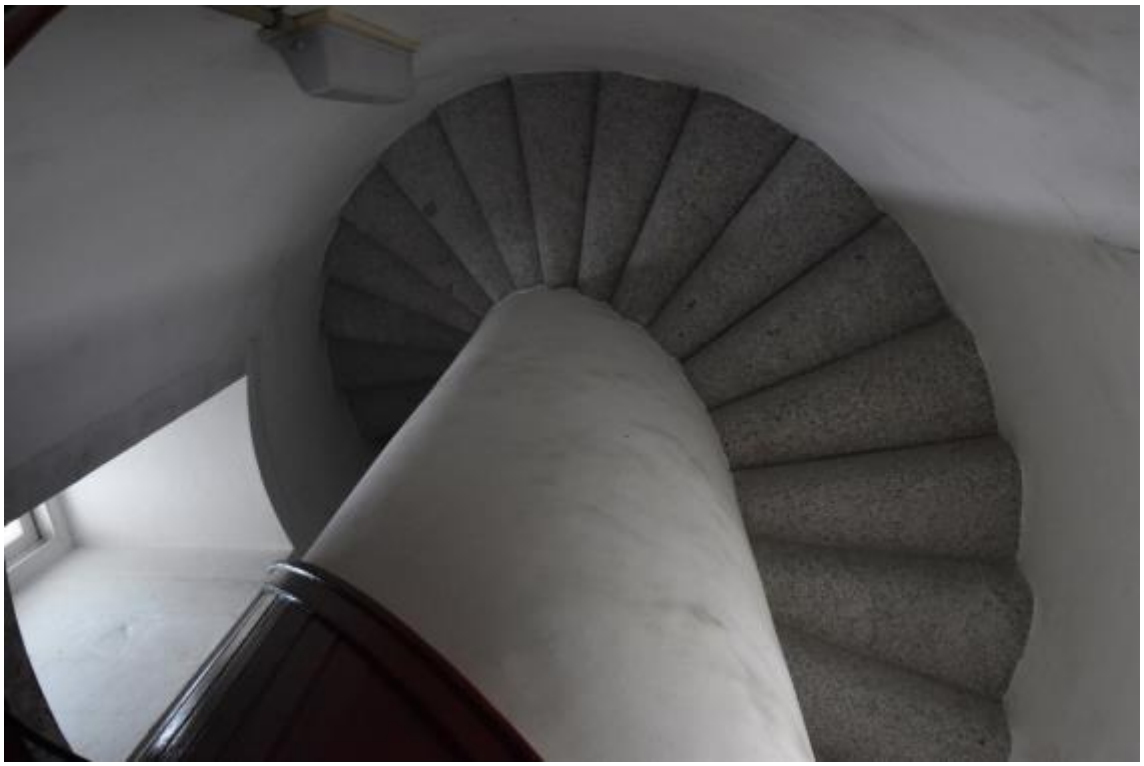
角島灯台は、日本海側で初となる洋式灯台であり、主要航路から順次進められた我が国の近代航路標識整備の展開を知る上で重要である。また、築造当時は国内で最も高い石造灯台であり、明治前期における石造灯台の建設技術の到達点を示すものとして重要である。

角島灯台俯瞰

角島灯台全景

角島灯台　灯籠レンズ

角島灯台　レンズ銘板



角島灯台　灯塔階段室見上げ

角島灯台　旧官舎（灯台記念館）

角島灯台　旧官舎暖炉跡

角島灯台　旧倉庫外観

角島灯台　旧日時計

角島灯台　旧回転装置巻上機内部